

○説明

沖縄国際大学に墜落した米軍機のニュースは瞬時に日本中に配信されました。新聞やテレビ、インターネットが発達したグローバルな世界は、瞬時に多くの人が情報を得られることを可能にしました。普段から米軍機が墜落するかもしれないと不安におびえていた人々はへり墜落で危険にさらされました。しかしその一方で、忘れられていた沖縄の基地問題が再び日本の大きな問題として取り上げられることを期待しました。日本本土にいる人にとってはよくある災害や事故のひとつとして、彼らには関係のない、忘れられようと思えば忘れられるニュースのひとつとして見られるようになりました。

在日米軍基地の約 75%が集中する沖縄。戦闘機の墜落事故の危険性や騒音の被害は長い間ありました。それに反対する声や運動もありました。しかし、それは日本本土では戦後から差し迫った問題としてはとりあげられていません。米軍から民間人が誤爆を受けても、レイプ事件が起こっても、へり墜落事故が起こっても、沖縄の人々の声は取り上げられませんでした。不安や不満は解消されないまま、彼らの我慢の上に米軍基地が沖縄に置かれてきました。(反対運動のスキット)

この映像を見てください。9・11。(→WTCのビルに突っ込む飛行機の写真) 2001年の9月11日は世界にとって忘れられない一日となりました。世界に衝撃を与えたこの映像ですが、ビルが崩壊し泣き叫ぶ人がいる一方で、この映像を喚起の声で迎えた人々がいました。(→イスラムの人々が喜ぶ写真) この事件が起こった背景には宗教対立だけでなく貧困の問題があったといわれています。世界には一日で何億、何十億ドル稼ぐ人がいます。その一方で、一日何十時間働いても、一ドル以下にしかならない労働をする人がいます。働いても報われない、どんなに努力しても貧困や飢餓から抜け出せない、きつい、汚い、危険な職場で働いて怪我を負っても命を落としても苦しみや痛み声を取り上げられない。彼らが喜んだのは、それまで貧困や飢餓で苦しんでいた人々の声が出るまでに出たからではないでしょうか。どんなに声を上げて取り上げられない。先進国の経済の発展が彼らの我慢の上に成り立っているとしたら、グローバルの影の部分が光に近づいた事を喜ぶのは当然のことなのかもしれません。

どんなに声を上げて報われない、どんなに反対しても取り上げられない、声は声として認められない。グローバルと考えられている問題にはすべて、同じような問題があるのではないのでしょうか。沖縄の基地問題でも9・11の問題でも、実は原因や構造は同じところにあるのかもしれません。